

健康社会医学

1-1 構成員

平成30年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	2人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
特任研究員	1人
大学院学生(うち他講座から)	5人 (0人)
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	13人
合 計	24人

1-2 教員の異動状況

尾島 俊之、教授、平成18年4月1日～現職
中村美詠子、准教授、平成24年4月1日～現職
柴田 陽介、助教、平成 26年4月1日～現職
岡田 栄作、助教、平成 26年4月1日～現職

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名
	JAGES(日本老年学的評価研究)プロジェクト、認知症にやさしい地域に関する研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	本研究は主として、健康格差、介護予防、ソーシャルキャピタルなどについて解明し、施策づくりに貢献することを目的としている。1999年に愛知県の2自治体で始まり、2016年には北海道から九州までの約40自治体の20万人規模の大規模コホートとなり、長期追跡を継続している。また、JAGESプロジェクトと一体的に、認知症にやさしい地域に関する研究を行っている。公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。千葉大学、東京大学、東北大学、日本福祉大学、国立長寿医療研究センター、WHO、米国ハーバード大学、英国ロンドン大学等との共同である。
	(3)前年度までの状況
2	長期のコホート研究などによって、健康格差の状況、社会参加の介護予防や認知症予防等への効果を始めとした知見をだし、発表を行っている。
	(4)当該年度内の進捗
	自治体との共同により2016年度に実施された20万人規模の大規模調査の分析を進めた。特に、厚生労働科学研究「認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究」の一環として、地域の格差や特徴が明らかとなった。
	(5)翌年度の方針と予想
	追跡調査を行い、これまで蓄積されたデータの分析を進めると共に、2019年度調査の準備を進めていく予定である。
	(1)研究・開発等のテーマ名
	NIPPON DATA 研究(社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究)
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	厚生労働省による循環器疾患基礎調査(1980年、1990年)、また国民健康・栄養調査(2010年)という日本国民の代表集団をベースラインとした大規模コホート研究である。当講座では、NIPPON DATA 2010の社会的要因分析、脂質異常症に影響する要因の変化などを担当している。滋賀医科大学、国立健康・栄養研究所等との共同研究である。
	(3)前年度までの状況
	これまで、2010年の実地でのベースライン調査への従事や、心電図読影等を行ってきた。また、担当課題についての分析、論文化等を進めてきた。
	(4)当該年度内の進捗
	研究班全体における社会的要因の分析方針の検討等に参画すると共に、データ分析等を進めた。
	(5)翌年度の方針と予想
	2020年調査に向けて、研究を進めていく予定である。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成29年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	25編 (12編)
そのインパクトファクターの合計	35.488
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	18編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	10編 (9編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4) 著書数(うち和文のもの)	11編 (11編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Nakamura H, Nakamura M, Okada E, Ojima T, Kondo K: Association of food access and neighbor relationships with diet and underweight among community-dwelling older Japanese: J Epidemiol, 27(11), 546-551, 2017.	2.447
2.	Tsuda S, Nakamura M, Aoki S, Ono H, Takagi M, Ohashi H, Miyachi J, Matsui Y, Ojima T: Impact of Patients' Expressed Wishes on Their Surrogate Decision Makers' Preferred Decision-Making Roles in Japan: J Palliat Med, 21(3), 354-360, 2018.	2.230
3.	Nagahata T, Nakamura M, Ojima T, Kondo I, Ninomiya T, Yoshita K, Arai Y, Ohkubo T, Murakami K, Nishi N, Murakami Y, Takashima N, Okuda N, Kadota A, Miyagawa N, Kondo K, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K: Relationships among Food Group Intakes, Household Expenditure, and Education Attainment in a General Japanese Population: NIPPON DATA2010: J Epidemiol, 28(Supple 3), S23-S28, 2018.	2.447
4.	Kobayashi T, Sugiura K, Ojima T: Risks of thromboembolism associated with hormone contraceptives in Japanese compared with Western women: J Obstet Gynaecol Res, 43(5), 789-797, 2017.	2.650
5.	柴田陽介, 岡田栄作, 中村美詠子, 尾島俊之: 医療系大学生におけるトレーナーサービスの経験状況及び期待するトレーナーの役割: 日本アスレティックトレーニング学会誌, 3, 71-77, 2017.	0.000
6.	野田龍也, 松本晴樹, 伴正海, 石井洋介, 原澤朋史, 木下栄作, 今村知明: 地域医療構想の推進に資する急性期指標の開発: 厚生の指標, 64(4), 9-14, 2017.	0.000
7.	野田龍也, 久保慎一郎, 明神大也, 西岡祐一, 東野恒之, 松居宏樹, 加藤源太, 今村知明: レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)における患者突合(名寄せ)手法の改良と検証: 厚生の指標, 64(12), 7-13, 2017.	0.000
8.	原岡 智子, 中村 寿子, 尾島 俊之: 災害被災地での公衆衛生支援活動に関する看護学生の認識: 東海公衆衛生雑誌, 5(1), 170-174, 2017.	0.000

論文数(A)小計 8 うち和文 4 IF小計 9.774

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Yatagai T, Shimauchi T, Yamaguchi H, Sakabe JI, Aoshima M, Ikeya S, Tatsuno K, Fujiyama T, Ito T, Ojima T, Tokura Y: Sensitive skin is highly frequent in extrinsic atopic dermatitis and correlates with disease severity markers but not necessarily with skin barrier impairment: J Dermatol Sci, 89(1), 33-39, 2018.	3.733
2.	Mizuta A, Okada E, Nakamura M, Yamaguchi H, Ojima T: Association between the time perspective and type of involvement in bullying among adolescents: A cross-sectional study in Japan: Jpn J Nurs Sci, 15(2), 156-166, 2018.	0.554

論文数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 4.287

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Murakami K, Ohkubo T, Nakamura M, Ninomiya T, Ojima T, Shirai K, Nagahata T, Kadota A, Okuda N, Nishi N, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K: Socioeconomic Inequalities in Oral Health among Middle-Aged and Elderly Japanese: NIPPON DATA2010: J Epidemiol, 28(Supple 3), S59-S65, 2018.	2.447
2.	Ebata S, Takahashi J, Hasegawa T, Mukaiyama K, Isogai Y, Ohba T, Shibata Y, Ojima T, Yamagata Z, Matsuyama Y, Haro H: Role of Weekly Teriparatide Administration in Osseous Union Enhancement within Six Months After Posterior or Transforaminal Lumbar Interbody Fusion for Osteoporosis-Associated Lumbar Degenerative Disorders: A Multicenter, Prospective Randomized Study: J Bone Joint Surg Am, 99(5), 365-372, 2017.	2.460
3.	Saito M, Kondo N, Aida J, Kawachi I, Koyama S, Ojima T, Kondo K: Development of an instrument for community-level health related social capital among Japanese older people: The JAGES Project: J Epidemiol, 27(5), 221-227, 2017.	2.447
4.	Nguyen HN, Miyagawa N, Miura K, Okuda N, Yoshita K, Arai Y, Nakagawa H, Sakata K, Ojima T, Kadota A, Takashima N, Fujiyoshi A, Ohkubo T, Abbott RD, Okamura T, Okayama A, Ueshima H: NIPPON DATA80 Research Group. Dietary tofuintake and long-term risk of death from stroke in a general population: Clin Nutr. 37(1), 182-188, 2018.	4.548
5.	山口 佳子, 平野 かよ子, 森本 典子, 春山 早苗, 小西 かおる, 石川 貴美子, 藤井 広美, 久佐賀 眞理, 大神 あゆみ, 尾島 俊之: 「未治療・治療中断の精神障害者の受療支援」の質に関する評価指標 標準化のための検証と改訂: 東京家政大学研究紀要, 58(2), 45-54, 2018.	0.000

6.	上原 里程, 篠原 亮次, 秋山 有佳, 市川 香織, 尾島 俊之, 松浦 賢長, 山崎 嘉久, 山縣 然太郎: 市町村における母子保健対策の取り組み状況「健やか親子21」の推進状況に関する実態調査を用いた都道府県別観察: 厚生 の指標, 64(15), 1-7, 2017.	0.000
7.	細川 陸也, 近藤 克則, 伊藤 美智予, 宮國 康弘, 水谷 聖子, 後藤 文枝, 阿部 吉晋, 柘植 由美, 半田 裕子, 尾島 俊之: 「健康交流の家」の利用による健康への効果検証: 社会医学研究, 34(2), 93-102, 2017.	0.000
8.	齊藤 雅茂, 宮國 康弘, 斎藤 民, 尾島 俊之, 近藤 克則: 近隣住民による独居高齢者への見守り活動のプロセス と未充足ニーズの評価 見守り活動は支援すべき人びとをカバーできているのか: 社会福祉研究, 129, 85-92,	0.000
9.	篠原啓子, 麻生克己, 中村美詠子: 健康者におけるコンビニ食の食品構成の違いによる食後血糖への影響: 日 本病態栄養学会誌, 20(2), 215-222, 2017.	0.000
10.	高取 克彦, 松本 大輔, 野田 龍也, 今村 知明: 地域高齢者におけるRomberg率の逆説現象と身体機能特性およ び転倒との関連性: 理学療法科学, 32(3), 397-402, 2017.	0.000
11.	久保慎一郎, 野田龍也, 川戸美由紀, 山田宏哉, 三重野牧子, 谷原真一, 村上義孝, 橋本修二, 今村知明: 患者 調査における平均診療間隔の分布と再来外来患者数推計値の変化: 日本公衆衛生雑誌, 64(10), 619-629,	0.000
12.	高橋伸彰, 木戸盛年, 野田龍也: インターネットアディクション尺度の統合, Consolidated Internet Addiction Scale (CIS)の提案: 日本アルコール・アディクション医学会雑誌, 52(6), 287-296, 2017.	0.000
13.	Ota S, Matsuda A, Ogihara Y, Yamada N, Nakamura M, Mori T, Hamada M, Kobayashi T, Ito M: Incidence, characteristics and management of venous thromboembolism in Japan during 2011: Circ J , 82(2), 555-560,	3.544
14.	Nakagawa Y, Amino, Inokuchi S, Hayashi S, Wakabayashi T, Noda T: Novel CPR System That Predicts Return of Spontaneous Circulation from Amplitude Spectral Area Before Electric Shock in Ventricular Fibrillation: Resuscitation, 113, 8-12, 2017.	4.587
15.	Suzuki T, Katagiri H, Noda T, Ota S, Murata H, Wasa J, Hosaka S, Shimoyama T, Takahashi M: Asymmetrical vertebral collapse from spinal metastasis in lower thoracic and lumbar spine: Journal of Orthopaedic Science, 22(3), 405-410, 2017.	1.394

論文数(C)小計 15 うち和文 8 IF小計 21.427

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	尾島 俊之, 岡田 栄作, 柴田 陽介, 中村 美詠子, 鳩野 洋子, 島田 美喜, 弓場 英嗣, 増田 和茂, 齊藤 雅茂, 相田 潤, 近藤 尚己, 近藤 克則: 全国の市町村における健康格差対策等の変化: 日本公衆衛生雑誌, 64(10 特別附	0.000
2.	尾島 俊之, 辻 大士, 細川 陸也, 宮國 康弘, 伊藤 美智予, 中村 廣隆, 水谷 聖子, 半田 裕子, 長坂 友子, 柘植 由美, 青木 祥太, 後藤 文枝, 近藤 克則: 健康交流の家の介護予防効果定量化の試み: 東海公衆衛生雑誌,	0.000
3.	尾島 俊之, 中村 美詠子, 岡田 栄作, 柴田 陽介: 健診時の随時尿を利用した食塩摂取量の地域差の把握: 日本 循環器病予防学会誌, 52(2), 185, 2017.	0.000
4.	尾島俊之, 中村恒穂, 鄭丞媛, 近藤克則, 宮國康弘, 岡田栄作, 中村美詠子, 堀井聡子, 横山由香里, 相田潤, ローゼンバーク恵美, 齊藤雅茂, 近藤尚己: 地域単位でみた受援力、近所づきあい等と自殺死亡率の関連: J	0.000
5.	中村美詠子, 三浦綾子, 岡田栄作, 柴田陽介, 尾島俊之: 勤労者における等価所得、等価食費と栄養素摂取量 の関連: 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 64, p335, 2017.	0.000
6.	中村美詠子, 土岐篤史, 三浦綾子, 長幡友美, 岡田栄作, 柴田陽介, 尾島俊之: 一般勤労者における自閉症形質 と栄養素摂取量の関連: 第28回日本疫学会学術総会講演集, p101, 2018.	0.000
7.	柴田陽介, 栗田泰成, 金承革, 山下浩史, 花田高彬, 尾島俊之: シニアサッカー選手の練習状況と内分泌・代謝 系疾患の関連: 東海公衆衛生雑誌, 5, p45, 2017.	0.000
8.	柴田陽介: 大学生のトレーナー活動を受けた経験及び期待するトレーナー活動に関する記述疫学: 第6回日本ア スレティックトレーニング学会学術集会プログラム・抄録集, p40, 2017.	0.000
9.	柴田陽介, 栗田泰成, 金承革, 山下浩史, 花田高彬, 尾島俊之: シニアサッカー選手の練習頻度・時間と主観的 健康感の関連: 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 64, p497, 2017.	0.000
10.	柴田陽介: シニアサッカー選手のサッカー実施頻度・時間と通院の関連: 第26回日本柔道整復接骨医学会学術 大会プログラム・抄録集, p85, 2017.	0.000
11.	柴田陽介, 早坂信哉, 尾島俊之, 石川鎮清, 萱場一則, 後藤忠雄, 中村好一, JMSコホート研究グループ: 身体活 動量と総死亡の関連: 第28回日本疫学会学術総会講演集, p122, 2018.	0.000
12.	岡田栄作, 中村美詠子, 近藤克則, 尾島俊之: 地域在住一般高齢者のIADL低下と食事準備の方法との関連~ JAGES2016~: 第76回日本公衆衛生学会抄録集, p502, 2017.	0.000
13.	尾関佳代子, 尾島俊之, 中村美詠子, 岡田栄作, 柴田陽介, 吉田隆久: ピロリ菌除菌と1週間の飲酒回数との関 連: 第28回日本疫学会学術総会講演集, p135, 2018.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 13 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	岡村祐一, 津田彰, 岡田栄作: 特定保健指導に活用可能なポジティブ行動変容カウンセリングプログラムの開発: 第76回日本公衆衛生学会抄録集, p303, 2017.	0.000
2.	園田巖, 早坂信哉, 井戸ゆかり, 渡邊智, 石澤太市, 綱川光男, 谷野伸吾: 子育て家庭における幼児の入浴習慣: 日本健康開発雑誌, 38, p20-27, 2017.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 2

IF小計 0.000

(2-2)レター

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	尾島俊之: 浜松医科大学における公衆衛生分野の人材育成: 公衆衛生, 82(1), 2-3, 2018.	0.000
2.	尾島俊之: 未病対策とイノベーションによる健康政策事例: 社会医学系専門医協会ニュースレター, 1(2), 5, 2017.	0.000
3.	尾島俊之: 研修プログラム認定委員会よりのご報告: 社会医学系専門医協会ニュースレター, 1(11), 2, 2018.	0.000

レター数小計 3

IF小計 0.000

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	尾島俊之: 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT) 発足の経緯と今後の期待: 公衆衛生, 82(2), 157-162, 2018.	0.000
2.	土岐篤史: 社会疫学からみた高齢家族: 家族療法研究, 34(1), 7-12, 2017.	0.000
3.	土岐篤史: 社会疫学からみた子育て家族: 家族療法研究, 34(3), 4-16, 2017.	0.000
4.	小林隆夫: 産科領域における血栓塞栓症に対する薬物療法: 周産期医学, 48(1), 92-94, 2018.	0.000
5.	小林隆夫, 杉浦和子: わが国における女性ホルモン剤使用に関連する血栓塞栓症の現況: 日本生殖内分泌学会雑誌, 22, 9-15, 2017.	0.000
6.	小林隆夫: 診療ガイドに基づいた静脈血栓塞栓症の予防と治療: 臨床血液, 58(7), 875-882, 2017.	0.000
7.	小林隆夫: 女性と静脈血栓塞栓症: 日本医師会雑誌, 146(1), 42, 2017.	0.000

総説数(A)小計 7 うち和文 7 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	久保慎一郎, 野田龍也, 西岡祐一, 明神大也, 東野恒之, 今村知明: レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)利用促進に向けた取り組み—患者突合(名寄せ)の手法開発と検証—: 医療情報学 論文集, 37(suppl.), 明神大也, 野田龍也, 久保慎一郎, 西岡祐一, 今村知明: レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)利用促進に向けた取り組み —1入院1データ化—: 医療情報学 論文集, 37(suppl.), 561-564, 2017.	0.000
2.	Kubo S, Noda T, Myojin T, Nishioka Y, Higashino T, Matsui H, Kato G, Imamura T: National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB): Outline and Patient-Matching Technique, bioRxiv, 2018.	0.000

総説数(C)小計 3 うち和文 2 IF小計 0.000

(4)著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	尾島俊之: 保健医療制度と医療資源, 日本における公衆衛生に関連する行政の流れ, 柳川洋・中村好一編集, 公衆衛生マニュアル2017, 南山堂, 2017.	
2.	尾島俊之: 健康寿命の延伸, 健康格差, 他, 松谷有希雄, 兼板佳孝, 横山徹爾, 曾根智史, 山縣然太郎, 尾島俊之, 青山旬, 谷原真一, 中山健夫, 吉池信男, 小橋元, 大橋正, 西山裕, 網野茂貴, 小西由起子: 図説 国民衛生の動向 2017/2018, 一般財団法人厚生労働統計協会, 2017.	
3.	尾島俊之: がん対策, 石川雅俊, 今村知明, 大磯義一郎, 大嶽浩司, 岡田加奈子, 岡本悦司, 尾崎米厚, 小澤温, 尾島俊之, 兼板佳孝, 川上憲人, 小風暁, 小橋元, 須賀万智, 高宮有介, 西浦博, 福永龍繁, 村上義孝, 安村誠司, 柳澤裕之, 山本秀樹, 横田裕行, 吉池信男監修: 公衆衛生がみえる 2018-2019, メディックメディア, 2018.	
4.	尾島俊之: 健康危機管理, 松田正己・中谷芳美 他, 標準保健師講座 3, 対象別公衆衛生看護活動(第4版), 医学書院, 2018.	
5.	小林隆夫: 肺血栓塞栓症の予防と治療指針, 岡元和文編著, 救急・集中治療最新ガイドライン2018-'19, 総合医学社, p327-331, 2018.	

6.	小林隆夫: 産褥期の静脈血栓塞栓症, 猿田享男, 北村惣一郎監修, 私の治療2017-2018年度版, 日本医事新報社, p1541-1543, 2017.	
7.	早坂信哉, 古谷暢基: 入浴検定公式テキスト, 日本入浴協会, 2017.	

著書数(A)小計 7 うち和文 7

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	赤井靖宏, 尾島俊之, 他: 第111回医師国家試験問題解説, メディックメディア, 2017.	
2.	社団法人日本家族計画協会公衆衛生委員会(柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一)監修, 柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一, 倉田貞美, 近藤今子, 巽あさみ, 千原泉, 坪井聡, 中村美詠子, 原岡智子, 水田明子, 渡辺晃紀: 保健指導ノート2018, 日本家族計画協会, 2017.	
3.	柳川洋, 尾島俊之編著, 中村美詠子: 社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版 Chapter11 医療制度, 医歯薬出版株式会社, 113-121, 2018.	
4.	今村知明, 池田俊也, 長谷川友紀 編集: 小林美亜, 瀬戸僚馬, 野田龍也: 地域医療構想と地域包括ケアの全国事例集(平成28年度版), 一般財団法人 日本公衆衛生協会, 全文(339), 2018.	

著書数(C)小計 4 うち和文 4

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

症例報告数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成29年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成29年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成29年度	
	件 数	金 額 (万円未満四捨五入)
(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	12 件	305 万円
(2)厚生労働科学研究費	6 件	335 万円
(3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	3 件	100 万円
(4)科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5)他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6)財団助成金	3 件	270 万円
(7)受託研究または共同研究	1 件	182 万円
(8)奨学寄附金	0 件	0 万円

(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	尾島俊之(代表), 基盤研究(C), ナッジ(Nudge)を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究, 平成26年度～平成29年度	0万円
2.	岡田栄作(代表), 若手研究(B), 地域包括ケアシステム構築のための地域診断活用支援プログラムの開発, 平成26年度～平成29年度	0万円
3.	尾島俊之(分担), 基盤研究(C), 思春期の抑うつと乳幼児期からの家庭要因及び環境要因に関する研究, 平成27年度～平成29年度, (代表者)地域看護学 助教 水田明子	5万円
4.	尾島俊之(分担), 基盤研究(C), ヘリコバクター・ピロリ除菌の成否と患者のライフスタイル及び体質の関連の解明, 平成29年度～平成31年度, (代表者)健康社会医学 特任研究員 尾関佳代子	50万円
5.	尾島俊之(分担), 挑戦的萌芽研究, 将来の糖尿病発症者である妊娠糖尿病妊婦を未病にするケア開発と医療費削減の効果, 平成27年度～平成30年度, (代表者)臨床看護学 教授 安田孝子	2万円
6.	尾島俊之(分担), 基盤研究(C), 「保健活動の評価指標」の「政策統計の報告事項」への適用可能性の検討, 平成28年度～平成30年度, (代表者)長崎県立大学・看護栄養学部・教授 平野 かよ子	6万円
7.	尾島俊之(分担), 基盤研究(A), 高齢者における健康の社会的決定要因に関する大規模パネル調査, 平成25年度～平成29年度, (代表者)東京大学・医学系研究科・准教授 近藤 尚己	20万円
8.	尾島俊之(分担), 基盤研究(B)(特設分野), 沖縄地域在住高齢者の健康長寿と社会関係資本の関係, 平成27年度～平成30年度, (代表者)琉球大学・法文学部・准教授 白井 ころろ	10万円
9.	中村美詠子(代表), 基盤研究(C), 食事の栄養素コスト評価とポジティブデビエンスアプローチ, 平成28年度～平成30年度	90万円
10.	中村美詠子(分担), 挑戦的萌芽研究, 将来の糖尿病発症者である妊娠糖尿病妊婦を未病にするケア開発と医療費削減の効果, 平成27年度～平成30年度, (代表者)臨床看護学 教授 安田孝子	2万円
11.	中村美詠子(分担), 基盤研究(C), 音声認識食事調査のための食物センサーの開発提言—食事記録コーパスの疫学的活用, 平成27年度～平成29年度, (代表者)至学館・健康科学部・教授 今枝 奈保美	5万円
12.	尾関佳代子(代表), 基盤研究(C), ヘリコバクター・ピロリ除菌の成否と患者のライフスタイル及び体質の関連の解明, 平成29年度～平成31年度	115万円

(2)厚生労働科学研究費

1.	尾島俊之(代表), 認知症政策研究事業, 認知症発症リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究, 平成28年度～平成30年度	210万円
2.	尾島俊之(分担), 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業, 社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究: NIPPONDATA80/90/2010, 平成25年度～平成29年度, (代表者)滋賀医科大学 教授 三浦克之	45万円
3.	尾島俊之(分担), 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業, 母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究, 平成28年度～平成30年度, (代表者)山梨大学 教授 山縣然太郎	80万円

4.	尾島俊之(分担), 日本の高齢化対策の国際発信に関する研究, 平成29年度～平成31年度, (研究代表者) 東京大学医学系研究科・近藤尚己	0万円
5.	尾島俊之(分担), 広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究, 平成29年度～平成30年度, (研究代表者) 熊本県八代保健所・木脇弘二	0万円
6.	岡田栄作(分担), 介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究, 平成28年度～平成30年度, (研究代表者) 千葉大学・近藤克則	0万円

(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1.	尾島俊之(分担), 地域づくりによる介護予防を推進するための研究, 平成27年度～平成29年度, (代表者) 千葉大学 教授 近藤克則	30万円
2.	尾島俊之(分担), 地域包括ケア推進に向けた地域診断ツールの活用による地域マネジメント支援に関する研究, 平成26年度～平成30年度, (代表者) 東京大学 准教授 近藤尚己	70万円
3.	尾島俊之(分担), エビデンスの飛躍的創出を可能とする超高速・超学際次世代NDBデータ研究基盤構築に関する研究, 平成29年度, (代表者) 医療経済研究機構 副部長/主席研究員 満武巨裕	0万円

(6) 財団助成金

1.	柴田陽介(代表), (NPO)NSCAジャパン, 中・高校生におけるトレーニング機器の充実度別のNSCAエクササイズリーフレットの有効性及び期待するトレーナー活動に関する研究, 平成29年9月4日～平成30年9月4日	50万円
2.	岡田栄作(代表), (公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム, 地域診断システムを活用した静岡県内の健康格差の要因解明と事業計画支援に関する研究, 平成29年9月25日～平成30年2月28日	120万円
3.	岡田栄作(代表), (公財)日本生命財団, 地域診断を活用した北方圏の健康格差要因の解明と事業計画支援, 平成29年10月30日～平成30年9月30日	100万円

(7) 受託研究または共同研究

1.	(共同研究) 尾島俊之, 災害地域における情報等連携策に関する基礎研究, 中部電力株式会社, 平成29年度	182万円
----	--	-------

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2) シンポジウム発表数	2 件	2 件
3) 学会座長回数	3 件	8 件
4) 学会開催回数	2 件	1 件
5) 学会役員等回数	1 件	件
6) 一般演題発表数	25 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	Ojima T: Development of indicators of dementia-friendliness of communities. 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International, Invited Symposist, Kyoto, April 27-29, 2017.
2.	Ojima T, Horii S, Yokoyama Y, Aida J. Extending indicators to dementia-friendliness. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Organized Symposium, Saitama, Japan, Aug 19-22, 2017.

3) 国際学会・会議等での座長

2.	Ojima T. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Saitama, Japan, Aug 19-22, 2017.
3.	Nakamura M. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Lunch time seminar6, Saitama, Japan, 21 Aug 2017.

4) 国際学会・会議等の開催

1.	尾島俊之. 事務局長. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), (Saitama, Japan), Aug, 2017. 参加者数約1100人
2.	尾島俊之. 副理事長. Mixed Methods International Research Association (MMIRA) Asia Regional 2017 / Japan Society for Mixed Methods Research (JSMR) 2017. (Osaka, Japan), Aug, 2017. 参加者数約300人

5) 役職についている国際学会名とその役割

1. 尾島俊之. 事務局長. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017)

6) 一般発表

6-1) 口頭発表

1. Ojima T, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Hashimoto S: Use of Healthy Life Expectancies in Municipal Governments in Japan. The 29th REVES (Réseau espérance de vie en santé) Santiago, Chile, 2017.
2. Ojima T, Ozeki K, Hatono Y, Shimada M, Yuba E, Masuda K: Preparedness of resources for disasters among municipalities in Japan. Mixed Methods International Research Association (MMIRA) Asia Regional 2017 / Japan Society for Mixed Methods Research (JSMRR) 2017. Osaka, Aug 4-6, 2017.
3. Ojima T, Rosenberg M, Horii S, Yokoyama Y, Aida J, Miyaguni Y, Shobugawa Y, Saito M, Kondo N, Kondo K: Promoting age and dementia friendly cities according to assessment data. The 14th International Conference on Urban Health. Coimbra, Portugal, 26-29 Sept, 2017.
4. Nakamura M, Miura A, Toki A, Shibata Y, Okada E, Ojima T: Low dietary zinc intake is associated with psychological distress in Japanese workers. The 10th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition, Adelaide, Australia, 28 Nov 2017.
5. Hayasaka S, Haraoka T, Ojima T: Status of illness or injury associated with at-home bathing services provided by long-term care insurance. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
6. Sonoda I, Hayasaka S, Ido Y, Tsuruoka H, Watanabe S, Ishizawa T, Tsunakawa M, Yano S: Comparison of children's bathing habits and differences in who bathes with the child. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
7. Goto Y, Hayasaka S, Kurihara S, Nonomura M, Morita Y, Ito K, Ojima T, Nakamura Y: Benefits of Bathing in Nagayu hot spring. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
8. Mizuta A, Ojima T: Association between use of long-term care insurance and mood disorder and anxiety disorder in double care. World Academy of Nursing Sciences (WANS) The 5th International Nursing Research Conference (INREC2017). 20 October 2017 Bangkok Thailand

6-2) ポスター発表

1. Ojima T, Okada E, Nakamura M, Jeong S, Miyaguni Y, Shirai K, Hirai H, Saito M, Aida J, Kondo N, Kondo K: Social support and long-term care need. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Saitama, Aug 19-22, 2017.
2. Nakamura M, Ojima T, Okada E, Tamakoshi A, Okubo H, Yokoyama T, Kono S, Imai S, Suga H, Takimoto H: Factors associated with prefectural disparity of life expectancy and healthy life expectancy in Japan: an ecological study. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
3. Shibata Y, Hayasaka S, Ojima T, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nakamura Y: The Jichi Medical School Cohort Study Group. Physical activity and cardiovascular disease risk in Japan: The Jichi Medical School Cohort Study. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
4. Okada E, Arak Yi, Kondo K, Ojima T: Elucidation of social factors related to mortality in community-dwelling elderly people in Japan: 10-year follow-up study of participants in the JAGES project. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
5. Ozeki K, Arak Yi, Okada E, Nakamura M, Shibata Y, Ojima T: Current condition of earthquake countermeasures in place at pharmacies. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
6. Muramatsu T, Okada E, Katayama H, Nakamura M, Ojima T: Moral sensitivity and empathy disposition of nursing university students in Japan. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
7. Tsuda S, Nakamura M, Aoki S, Ono H, Takagi M, Ohashi H, Miyachi J, Matsui Y, Ojima T: Preparation for decision making among Japanese home care patients and their families. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
8. Toki A, Nakamura M, Okada E, Shibata Y, Ojima T: The simplified autism spectrum disorder screening effects in health examination for starting primary school. 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
9. Nagahata T, Nakade M, Nakamura M, Okada E, Ojima T, Kondo K and JAGES Group: Social Participation and Hobby Reduce the Risk of Underweight in Older Japanese: The JAGES Longitudinal Study. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
10. Katahashi N, Okada E, Shibata Y, Yasuda H, Nakamura M, Ojima T: Association of oral salt intake and blood pressure with salt taste thresholds in healthy people, Japan. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
11. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T: The number of thromboembolism patients among of female hormone users estimated from a national epidemiological survey in Japan. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
12. Kobayashi T, Sugiura K, Ojima T: Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives in Japanese women compared to Western women. Women's Health Issues in Thrombosis and Haemostasis. The 63rd Annual Meeting of the Scientific and Standardization Committee of the ISTH. Berlin, 2017.7.8

13.	Sugiura K, Kobavashi T, Ojima T, Urano T : The incidence and prognosis of venous thromboembolism (VTE) and arterial thromboembolism (ATE) associated with oral contraceptives by age groups in Japan. XXVIth Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (ISTH), Berlin, 2017.7.11
14.	Yasuda T, Oi Y, and Ojima T: Weight Gain, Energy Intake, and Living Activities Among Pregnant Women in Japan. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan
15.	Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y : Relationship between maternal fashion consciousness and mothers' feelings about their child rearing among Japanese women who raise their 18-month-old child. The 31th International Confederation of Midwives, 18-22 June 2017, Toronto (Canada).
16.	Mizuta A, Suzuki K, Ojima T: Relationship between teacher support and depression among junior high school students in Japan. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, 19-22 Aug 2017, Saitama, Japan

(2)国内学会の開催・参加

1)学会における特別講演・招待講演

2)シンポジウム発表

1.	岡田栄作、松井大、宮田基. ワークショップや定例会をどのように研究論文に変換するか. 日本ファシリテーション協会ファシリテーションシンポジウム2017 福岡 2017年5月
2.	岡田栄作、野口有紀. 地域診断システムを活用した静岡県内の健康格差の要因解明と事業計画支援に関する研究. 第3回ふじのくに地域・大学フォーラム with 地域イノベーター 三島 2018年2月

3)座長をした学会名

4.	中村美詠子、第6回日本栄養改善学会東海支部会、愛知県名古屋市、平成29年6月25日
5.	中村美詠子、第28回日本疫学会学術総会、福島県福島市、平成30年2月25日
6.	岡田栄作、第76回日本公衆衛生学会 鹿児島 平成29年11月
7.	小林隆夫、第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会、福島、平成29年6月2日
8.	小林隆夫、第24回肺塞栓症研究会、東京、平成29年11月25日

4)主催した学会名

1.	尾島俊之. 理事長. 第63回東海公衆衛生学会. 津市. 2017年7月15日
----	---

5)役職についている国内学会名とその役割

1.	尾島俊之、日本混合研究法学会理事長
2.	尾島俊之、東海公衆衛生学会理事長
3.	尾島俊之、日本疫学会理事、疫学専門家養成検討委員会委員長
4.	尾島俊之、日本循環器病予防学会理事、総務委員会委員
5.	尾島俊之、日本産業衛生学会東海地方会理事
6.	尾島俊之、日本産業衛生学会代議員
7.	尾島俊之、日本公衆衛生学会評議員、学術行政連携推進委員会副委員長
8.	尾島俊之、日本栄養改善学会評議員
9.	尾島俊之、日本公衆衛生看護学評議員
10.	尾島俊之、日本多施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員(日本疫学会からの推薦)
11.	尾島俊之、日本集団災害医学会評議員
12.	尾島俊之、全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会卒前カリキュラム委員長
13.	尾島俊之、全国地域医療教育協議会代議員
14.	尾島俊之、社会医学系専門医協会研修プログラム認定委員会委員
15.	中村美詠子、日本疫学会代議員
16.	中村美詠子、日本産業衛生学会代議員
17.	中村美詠子、日本栄養改善学会評議員、栄養学雑誌副編集委員長
18.	中村美詠子、日本栄養改善学会東海支部会幹事
19.	中村美詠子、東海公衆衛生学会理事、東海公衆衛生雑誌編集委員長
20.	柴田陽介、東海公衆衛生学会、東海公衆衛生雑誌編集委員
21.	岡田栄作、日本社会医学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外 国	(2)国 内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1 件	0 件

(1)外国の学術雑誌の編集

1. PLOS ONE, Academic Editor, PubMed/Medlineの登録あり、インパクトファクター2.806

(2)国内の英文雑誌等の編集

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1. 尾島俊之、1回 Asia Pacific Journal of Public Health
2. 尾島俊之、1回 Onco Targets and Therapy
3. 中村美詠子、3回 Diabetes Care
4. 中村美詠子、1回 BMJ Open
5. 中村美詠子、2回 Environ Health Prev Med
6. 中村美詠子、1回 Eur J Clin Nutr
7. 中村美詠子、1回 J Atheroscler Thromb
8. 尾関佳代子、1回 International Journal of Biometeorology

9 共同研究の実施状況

	平成29年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	7 件
(3)学内共同研究	2 件

(1)国際共同研究

(2)国内共同研究

1. NIPPON DATA 研究、三浦克之(滋賀医科大学社会医学講座)、他
2. JAGES(日本老年学的評価研究)、地域在住高齢者の要介護・認知症発生に関わる要因に関する追跡研究、心理社会面に着目した認知症の予防的福祉に向けた縦断研究、近藤克則(千葉大学予防医学センター、国立長寿医療研究センター)、他
3. 健康日本21(第二次)の推進に関する研究、橋本修二(藤田保健衛生大学)、辻一郎(東北大学大学院)、他
4. 広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究、木脇弘二(熊本県八代保健所)、金谷泰宏(国立保健医療科学院)、他
5. 健やか親子21に関する研究、山縣然太郎(山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座)、他
6. 難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究、中村好一(自治医科大学)、他
7. エビデンスの飛躍的創出を可能とする超高速・超学際次世代NDBデータ研究基盤構築に関する研究、満武巨裕(医療経済研究機構)、他

(3)学内共同研究

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術(及び多椎間脊椎インプラント手術)におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究、整形外科学講座
2. 妊娠糖尿病に関する研究、内科学第二講座

10 産学共同研究

	平成29年度
産学共同研究	2 件

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術(及び多椎間脊椎インプラント手術)におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究
2. 災害地域における情報等連携策に関する基礎研究

11 受 賞

(1)国際的な授賞

(2)外国からの授与

(3)国内での授賞

1. 中村美詠子、第90回日本産業衛生学会優秀口演賞、平成29年5月13日

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1. 尾島俊之、認知症施策に評価基準／研究者らプロジェクト／暮らしやすさ向上へ. 沖縄タイムス 2017.11.21
2. 尾島俊之、認知症に優しい町を 25年予測 5人に1人「暮らしやすさ」測定へ調査. 愛媛新聞 2017.11.09
3. 尾島俊之、認知症に優しい地域へ「理解度」「共生」「受援力」が鍵 暮らしやすさ「物指し」研究進む. 京都新聞 2017.10.31
4. 尾島俊之、認知症に優しい地域とは 評価の「物差し」研究進む 理解度／共生する姿勢／受援力. 中国新聞 2017.10.25
5. 尾島俊之、認知症に優しい地域とは「理解度」「共生」「受援力」「物差し」の研究進む. 秋田魁新聞 2017.10.16
6. 中村美詠子、新しいみかんの研究レポート、くみあいだよりNo.564(三ヶ日町農業共同組合)、平成29年6月12日
7. 中村美詠子、「いつかは禁煙したい」人への支援法とは. メディカルトリビューンWeb版(平成29年6月29日)、新聞版(平成29年7月20日号)
8. 柴田陽介、天竜区清竜中で浜医大運動医学講座、静岡新聞、平成30年年3月9日
9. 柴田陽介、体幹鍛えスポーツ上達、中日新聞、平成30年3月7日
10. 早坂信哉、TBS健康カブセル！ゲンキの時間出演 平成29年11月26日
11. 早坂信哉、TBSジョブチューン出演 平成29年11月18日

13 その他の業績